

デジタル×5Gは、ビジネスを ～最先端技術を活用した「新時代の

どう変えるのか 働き方」とは～

キャスター
新井 恵理那 氏

ビジネスや社会に劇的なインパクトを及ぼす「デジタル×5G」時代が到来する。その先端ビジネスの一翼を担っているのが、NEC ネットズエスアイだ。同社では、顧客やパートナーと「共創」を行い、デジタル時代のイノベーションを加速させる一方、破壊と再生に向けた自社変革を断行しているという。こうした取り組みの背景や目的について、代表取締役執行役員社長の牛島 祐之氏にフリーキャスターの新井 恵理那氏が話を聞いた（本文、敬称略）。

Profile
テレビ朝日系「グッド!モーニング」、TBS系「新・情報7daysニュースキャスター」、NHK第1ラジオ「歌え!土曜日LOVE Hits」ほか、TV、ラジオで活躍中。



「デジタル×5G」時代を見据え ビジネスは新たなステージへ

新井 ■ 最近、IoTやAI、クラウドといった言葉をニュースなどで、よく目にするようになりました。こうしたデジタル技術がなぜ、ビジネスで注目を集めるようになったのでしょうか。

牛島 ■ いま国内外の様々な企業が、これらのデジタル技術を活用する「デジタルカンパニー」として台頭し、新たな価値を創造する挑戦を始めています。

物流革新や無人店舗を展開する米Amazon、ライドシェアリングで急成長する米Uber（ウーバー）などはその代表例です。このようにデジタル技術が、既存のビジネスの枠組みを大きく変える力を持ち始めているのです。

新井 ■ 業種を問わずデジタル化への変革が求められているのですね。最近では「5G（第5世代移動通信システム）」の国内サービス開始が迫っていることも大きな話題となっています。次世代のインフラとして5Gが加わることによって、社会やビジネスはどのように変化するのでしょうか。

牛島 ■ 5Gは、現在の4Gと比べて通信速度が100倍、同時に接続できる人も100倍、しかも遅延がほとんどないという革新的な特長を備えています。この5Gとデジタルが融合することで、

少し前なら“夢物語”にしか過ぎなかった世界が実現可能となるはず。クルマの自動運転などはその一例です。

新井 ■ それはすごい技術革新ですね。5Gが始まると、そんな世界が身近になるわけですね。こうした「デジタル×5G」時代における、NEC ネットズエスアイの強みとは何でしょうか。

牛島 ■ 当社は1953年に設立されました。以後、放送局や通信キャリアのお客様をはじめ、官公庁から企業まで幅広いお客様に対して、ネットワークシステムやICTサービスを一貫して提供してきた歴史があります。デジタル×5G時代では、ネットワークとICTがより密接にかかわり合い、サービス面で革新的な変化を起こすことが想定されます。そうした中、デジタルと5G双方の事業基盤と人材をフルレンジで提供できることが、当社ならではの大きな強みだと考えています。

すでに当社では、独自の5Gラボ（検証施設）を立ち上げ、新しいサービスを支えるための技術開発や検証を行っています。

最先端のデジタル技術を活用し 時代に先駆けた働き方改革を実践

新井 ■ NEC ネットズエスアイは、働き方改革でもデジタル技術を積極的に活用されているそうですね。

牛島 ■ 当社は2007年から働き方改革をスタートさせ、いち早くペーパーレス化やテレワークなどを推進してきました。2017年からはIoTやAIを融合した知の共有や共創の仕組みづくり、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）を使った定型業務の自動化などに取り組んでいます。クラウドサービスや高品質な映像で臨場感のある会議コミュニケーション「Zoom（ズーム）」は、時間や場所にとらわれない新しい働き方の実践につながっています。

新井 ■ クラウドサービスや映像ということ、私は定額制で映画や音楽が楽しめるサービスなどを思い浮かべますが、なぜそれが新しい働き方につながるのでしょうか。

牛島 ■ クラウド上でデータや資料を管理すれば、外出先や出張先、自宅からでも必要な情報にいつでもアクセスでき、場所を選ばず快適に仕事が行えるようになります。また離れた場所でも、リアルな映像で互いの顔を見てコミュニケーションできれば、情報共有や意思決定のスピードも速くなり、生産性の高い働き方が実現できます。さらに、今年からは首都圏にサテライトオフィス約10カ所開設します。社員は平均して通勤30分圏内の最寄りのオフィスに出社し、分散して働く取り組みも始めました。

新井 ■ それはとても便利ですね。通勤

や移動などの時間が節約できますし、生産性の向上にも効果がありそうです。なぜそうした実践を自ら行う必要があるのでしょうか。

牛島 ■ それは冒頭にお話した、お客様のデジタル革新を支援するためです。デジタル技術の進化は非常に速く、次々と新しい技術やサービスが生まれています。当社自らがそれを取り入れて実践すれば、いち早くメリットや課題を体感することができます。そうした自社実践の検証結果を踏まえ、お客様へビジネスプロセスの見直しも含めた最適なご提案をするのが、当社の大きな特色となっています。

新井 ■ 確かに、仕事のやり方が以前のままでは効果が半減してしまいますね。

牛島 ■ その通りです。どんなに革新的な技術やサービスを取り入れても、稟議のためのハンコが必要だったり、経費申請や営業日報のためにオフィスへ戻る必要があったら、生産性は上がりません。当社は自社のオフィスで実践することで技術やサービスを活用する上での改善点を事前に見だし、安心して使える形としてお客様にご提案しています。

新井 ■ そうした先進的なオフィスをお客様が見学することは可能なのですか。

牛島 ■ はい。当社のオフィスはいつでも見学していただけます。ぜひ、様々なお客様に当社の働き方をご覧いただき、共に新しい時代の働き方に挑戦していきたいと思っております。



最先端ICTを活用した働き方改革を実践。その先進的なライブオフィスは見学も可能だ

コミュニケーションサービスの オーケストレーターをめざして

新井 ■ デジタル革新を自ら実践することは、これまでの慣習や文化などを再創造するような挑戦ですね。

牛島 ■ はい。時には当たり前だと思っていたこれまでの慣例を破壊して、新た

に再生していくようなことも必要だと感じています。その一環として、このほどビジネスデザインを専門的に行う組織を立ち上げ、デジタル技術を活用した新たなサービスの創出をお客様やパートナーと共創できるようにしたほか、コンサルティングやデジタル技術に精通した人材の育成も加速させています。

新井 ■ 自社の変革を急ピッチで進めているのですね。その他にもチャレンジされていることはありますか。

牛島 ■ 自動運転の技術開発にも見られるように、これからの時代は1社だけで製品やサービスを開発するのではなく、積極的に外部とも連携する必要があります。そこで当社もパートナーである先進企業、スタートアップ企業とのオープンイノベーションを積極的に進めています。特に近年は国内外のスタートアップ企業への投資を拡大して、お客様の一步先のニーズに応える新たなサービスの創出に取り組んでいます。

新井 ■ 様々な取り組みを多方面で進めているのですね。NEC ネットズエスアイは、これからのデジタル時代にどんな企業でありたいと考えているのでしょうか。

牛島 ■ 当社はシステムインテグレーターとして「デジタル×5G」時代への変革の強みとなる技術や人材を長年にわたって蓄積してきました。今後は企業活動に必要なサービスやビジネスの創造を支援する「コミュニケーションサービス・オーケストレーター」になりたいと考えています。当社の強みを

生かし、「パートナーやお客様との共創で、新しいバリューチェーンをプロデュースする役割を担いたい」という想いです。

新井 ■ NEC ネットズエスアイの企業姿勢や今後の取り組みがよく分かりました。これからの挑戦にも期待しています。